



乾草・ロールベール専用イタリアンライグラス 新品種「ドライアン」の特性と利用法

雪印種苗(株) 千葉研究農場

作物研究室 小 楨 陽 介

はじめに

イタリアンライグラスは、発芽・初期生育が極めて早く、短期間で多収が得られ、栽培しやすい草種です。また、糖分含量(WSC)が高く、サイレージ品質や嗜好性も優れています。しかし、刈取り時の水分含量がやや高いので、良質のサイレージや乾草を調製するためには、十分に乾燥させる必要があります。水分含量が低く、乾きやすい品種を選択することが有利になります。

当社では、以前からイタリアンライグラスの品種開発に力を入れており、「ハナミワセ」「タチワセ」「タチマサリ」「タチムシャ」のような機械刈りに適し、乾燥効率に優れた直立型耐倒伏性品種や中～長期利用向け品種の「マンモスB」「エース」など、極早生から晩生品種まで様々な特性を持つ品種をそろえています。

今回、当社育成品種のラインアップに、中生で乾きが早い乾草・ロールベール専用の新品種「ド



写真2 ドライアンは倒伏に強い(左側:コモンライアン)が加わることになりましたので、品種特性および利用方法についてご紹介致します。

1 品種特性

1) 草姿・草型

草型は、タチワセやタチムシャと同様に直立型を示します。出穂期の草丈は120cm程度で、タチムシャなどと比較するとやや小ぶりですが、分けつ数が多く、細葉・細茎の特徴のある草姿をしています(写真1)。

2) 出穂期

早生品種のタチワセより10日程度遅く、タチムシャ、コモン(普通種)と同じ2倍体中生品種で、宮崎では4月下旬、千葉では5月上旬に出穂期に達し、収穫適期となります。

3) 耐倒伏性

タチムシャと同様に強く、コモンが出穂前に倒伏してしまうのに対し、ドライアンは出穂期になっても倒れにくく、耐倒伏性に優れています(写



写真1 ドライアンの細葉・細茎の草姿



写真3 ドライアの刈取り跡 (刈り残しが少ない。)



写真4 コモンの刈取り跡 (刈り残が多い。)

表1 ドライアンの成績

品種名	初期生育	出穂期 月日	草型	倒伏 1	再生 1	草丈 (cm)	乾物率 (%)				乾物収量 kg / 10 a					
							合計	同比	同比	合計	同比	同比	合計	同比		
宮崎研究農場 (H8~10年平均)																
ドライアン	4.6	4/23	2.9	4.8	4.9	122	88	16.5	16.2	16.4	1,142	102	337	113	1,478	104
コモン	4.7	4/24	5.6	2.2	3.7	127	85	13.6	13.9	13.7	1,116(100)	299	(100)	1,415(100)		
千葉研究農場 (H10~12年平均)																
ドライアン	5.4	4/29	2.9	6.7	6.4	116	101	13.9	21.3	15.3	1,054	101	382	116	1,435	105
コモン	5.2	4/28	6.8	1.8	4.9	118	101	12.9	19.0	14.0	1,045(100)	328	(100)	1,373(100)		

初期生育、再生：極良9～極不良1 草型：ほふく9～直立1 倒伏：なし9～甚大1
 同比の数値は、コモンを100とした比較値

のむれがなく、再生が良好で、2番草の収量性は多収となります(表1、写真5)。

6) 乾物率と乾燥速度

コモンと比べ乾物率が高く、茎も細いことから乾燥速度は、コモンよりもかなり早く、乾きやすい品種です(図1)。

7) 春播き性

春播きにおける出穂性は早生品種と同等で、収量性も比較的高く、早春播きでも利用できます(表3)。

2 栽培方法

1) 播種時期

春1番草の収量を安定的に確保するために、下記を目安に適期播種を心掛けて下さい。

西南暖地 10月上旬～11月上旬
 関東 9月下旬～10月中旬

真2)。

4) 耐寒・耐雪性

耐寒性は中程度で、北関東及び東北南部での栽培は問題ありませんが、耐雪性はやや弱いので、多雪地帯での栽培は避けて下さい。

5) 収量性

出穂期刈り1番草の乾物収量は、手刈りでの試験結果では、宮崎、千葉県ともにコモンと同程度ですが、機械刈りの場合には、コモンは倒伏に弱いため刈取りロスが多く、ドライアンが多収となります(表1, 2, 写真3, 4)。実際に試作していただいた農家さんからは、茎数が多いためか、見た目以上に収量がとれたとの評価をいただいています。また、ドライアンは、倒伏に強いため株元

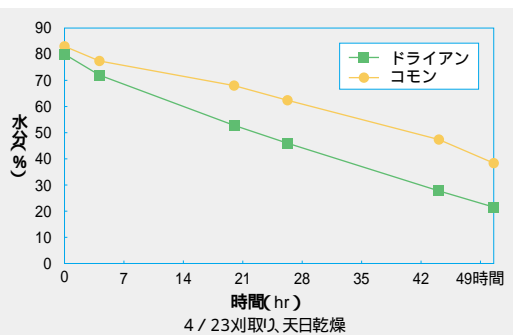


図1 乾燥速度の品種間差 (平成9年宮崎現地試験)



写真5 ドライアンは倒伏による株元のムレがなく、再生が良好（右側：コモン）

表3 春播きの試験成績

品種名	出穂期	耐倒伏性 (*)	出穂期の草丈 (cm)	乾物率 (%)	生草収量 (kg/10a)	乾物収量 (kg/10a)
タチワセ	5/26	8.7	120	13.9	3,627(100)	503(100)
タチマサリ	5/26	8.7	124	12.8	3,853(106)	494(98)
ドライアン	6/1	9.0	115	15.0	4,080(112)	613(122)
マンモスB	6/1	8.0	122	13.2	4,466(123)	589(117)

*評点 1:極弱-9:極強 播種日:平成8年3月21日
刈取日:タチワセ、タチマサリ 6月3日 ドライアン、マンモスB 6月10日

2) 施肥量(目安)

10a当たり堆肥3~4t,石灰100~200kgを標準としてすき込み,元肥として窒素・リン酸・カリをそれぞれ5~6kg程度施用します。刈取り後には,追肥として窒素とカリを3~4kg程度施用します。

3) 播種量

2~3kg/10aを標準とし,できるだけ播種後の鎮圧など基本技術を励行して下さい。播き遅れや土壌条件が悪い場合は3~5割増量して下さい。

3 利用方法及び適応地域

1) 利用方法と作付体系

ドライアンは倒伏に強いいため降雨後でも株元まで乾きやすく,むれが少なく,刈取りしやすい品種です。また,細葉・細茎で刈取り後の乾燥が早いという特性と,中生で天候が安定し気温も高くなるゴールデンウィーク前後に出穂し,刈取り適期となることから,乾草やロールペール・ラップサイレージ利用に特に適しています。

ロールペール・ラップサイレージ利用では,原料草の水分は50~60%が最適とされますが,ドラ

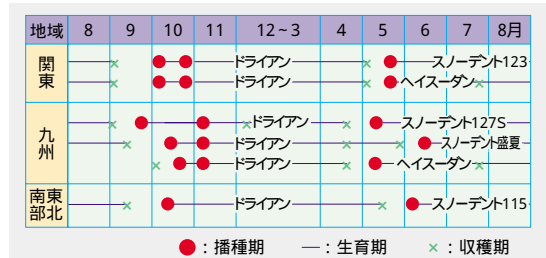


図2 ドライアンを利用した作付体系例

イアンは刈取り後,その適水分域までに要する時間が,コモンと比べ半日以上早く,短時間の予乾で調製できます(図1)。このことは,収穫・梱包までに雨にあたりリスクを減少させ,反転作業も少なくすむなどの利点となります。また,細茎でしなやかなため,ロールペールの巻込み密度が高くなり,良質のサイレージ調製が期待できます。

乾草利用についても,好天が続けば3日程度で水分が18%以下となり,梱包・収納できますし,モアコンディショナーで茎を圧砕すれば更に乾きが早くなります。

ドライアンの収穫後は,トウモロコシやソルガム,暖地型牧草を作付けします。図2に,ドライアンを利用した作付体系例を示しましたので参考にして下さい。

2) 適応地域と栽培上の注意点

ドライアンは関東以西の冬作用として広く利用可能ですが,前述したように,耐雪性はあまり強くありませんので,根雪日数が80日を超えるような地域での栽培は避け,エースやナガハヒカリなどの耐雪性の強い品種を利用して下さい。

また,晩秋や晩春から初夏に多発する冠さび病に対する抵抗性は中~強程度で,タチワセなどの早生品種より強いので,9月播きや春遅くまでの利用にも適します。しかし,西南暖地では,いもち病などによる立枯れの心配もあるので,極端な早播きは避け,九州南部での播種期は9月下旬以降がよいでしょう。

以上,イタリアンライグラスの新品種「ドライアン」の特性と利用法について述べましたが,本品種の長所を上手に利用され,少しでも良質の自給飼料生産と利用の場で,役立てていただければ幸いです。